

## 令和4年度第1期アーバンデザインセミナー第1回実績報告書

### 1. 開催日時

令和4年8月10日（水）19時00分～20時30分

参加人数: 36名（UDCBKでの視聴: 21名、オンライン: 15名）

※オンライン会議システムとUDCBKのオープンスペースでの視聴を併用

※オンラインでのアーカイブ配信の視聴回数は、16回

### 2. テーマおよび話題提供者

「コミュニティカフェが育む地域のつながり」

- コミュニティにおけるヒト、モノ、コトのつながり促進や地域課題解決のアプローチの事例など、今年度のセミナーのテーマである「大学のあるまち・学生の住むまち」について、地域コミュニティとのつながりの視点から3回シリーズで展望する「つながりのあるまち」の第1回である。
- 第1回の本セミナーは、学生の提案をきっかけに、野路町の住民の方とともに始まったコミュニティカフェを題材に、スタートまでの道のり、取組内容、その成果、またコロナ後の地域コミュニティの可能性について、UDCBKセンター長で立命館大学理工学部環境都市工学科教授の岡井有佳氏、立命館大学大学院理工学研究科都市計画研究室の坂本賢矢氏、桑野稜市氏、のじのじカフェ きらくスタッフの杉本俊子氏、谷正美氏を講師に迎え、開催した。



### 3. 話題の概要

#### (1) 桑野氏による講演: のじのじカフェ きらくについて

##### ア. 創立の経緯

- まちの課題を発見し、解決するための考え方や方法について学ぶ「まちづくり演習」という授業があり、2018年度の対象地域が野路町であった。
- 地域住民にまちの課題をヒアリングした結果、コミュニティ拠点の不足や、学生と地域の人々が交流する機会の不足などが浮かび上がってきた。
- 学生側では、ヒアリング結果に基づき、空きスペースとなっていた新宮会館の一室を活用したコミュニティカフェを提案した。野路町内会にもこの提案に賛同してもらい、コミュニティカフェ計画が実現することとなった。

##### イ. 事前準備

- 運営に向けて、ミーティングや住民とのワークショップを実施し、コミュニティカフェの目的を明確にしていった。
- まず地域住民のための交流拠点が形成され、その後、学生と地域住民の交流に発展し、安心・安全な生活ができる地域環境の形成に至るような段階的な目標を設定した。
- カフェの名称として、学生の意見である「野路」の要素と地域住民の意見である誰でも「気楽」に訪れられる施設という要素を組み合わせ、「のじのじカフェ きらく」とした。
- 近隣のコミュニティカフェ「ふれあいハウス絆」や「R-DECO」を視察し、コミュニティカフェのイメージを明確にするとともに、メニュー・価格設定や設備の準備についての知見を得た。
- 家具や食器類などの備品の収集、カフェの内装整備・看板の設置、また飲食物のメニュー開発など準備を進めていった。さらに、野路町のボランティアスタッフが食品衛生責任者の許可も取得し、2020年2月13日にオープンに至った。

##### ウ. 運営内容

- 地域のボランティアスタッフと都市計画研究室の学生が連携して運営しており、毎週月・木曜日の11時から16時まで祝日でも営業している。
- メニューとしては飲み物と市販のお菓子のセットがあり、200円(「志(こころざし)」として)で販売している。今後はデザートづくりへの挑戦も考えている。
- オープン当初は、一日に40人から50人程度の利用があったが、オープン直後の4月に新型コロナウイルスの緊急事態宣言の発令があり、一時閉店した。再オープン後は密を避けるということもあり、約20人程度の利用となっている。

##### エ. イベント

- 新型コロナウイルス感染症によって生活が困窮した独り暮らしの学生を支援するため、フードバンク（食料の無償配布）を町内会、経済学部の佐藤教授と連携して行うこととなった。
- 2か月に1回、米や野菜、加工食品、日用品を学生に配布しており、現在まで計9回開催した。
- そのほか、オープン一周年記念の餅つき大会のやラジオ番組への出演、テレビ番組の取材対応などの活動も行った。
- これまで携わってきたプロジェクトリーダーは、地域の人々との関わりやその広がり喜びを見出している。一方、カフェに学生を呼び込むことの難しさを感じるとともに新型コロナウイルス感染症による活動の休止によって賑わいが失われたことを残念に感じている。

#### オ. 今後の展望

- 大学のサークルと連携したイベントの実施により、大学のあるまちならではの場所となることを目指したい。また、近隣の中学・高校とも連携し、学校の活動や学びが披露できる場所にしていきたい。
- 大学や周辺の学校との連携をきっかけに、若者世代にカフェの存在やその良さを知ってもらうことで、多様な世代が交流できる拠点をつくっていきたい。

### (2) 岡井氏による講演: 地域と学生との交流事例

#### ア. 東京都文京区本郷地区

- 東京大学や東京医科歯科大学などが位置する文教地区であり、古くからの商店会や各町会が地域コミュニティ活動の中心であった。
- 新住民も増えているが、地域活動に参加しない傾向があり、また商店も後継者不足などで加盟店が減少している。

#### イ. NPO 法人「街 ing 本郷」の設立

- 地域活動の支援や商店会の活性化を図ることを目的に、地元の商店を中心に NPO 法人「街 ing 本郷」を設立した。
- 名称には、まちが進化する(ing)という意味と様々な主体のマッチング・調和を図るという意味が込められている。
- 本郷がよいまちであると思ってもらえるように、まちの価値を高めていくような、地域ブランディングの視点も盛り込まれている。

#### ウ. 活動事例 1: 本郷書生生活

- 地価が高い本郷地区は学生の家賃負担が重くなる傾向にある。そこで大学周辺に学

生が居住できるよう、空き家を活用して学生に賃貸する仕組みをつくった。

- 学生は部屋（シェアハウスのような形態）を格安で借りることができる代わりに地域活動（隔週の定例会など）に参加することが義務になっている。学生と地域の相互にメリットがある取組である。
- 現在、10名以上の学生がこの仕組みを利用しており、地域交流が図られている。他にも、小学生の学習支援活動に学生が参加するなどの交流もある。

#### エ. 活動事例 2: ひとつ屋根の下プロジェクト

- 本郷書生生活と同様に学生と高齢者の相互にメリットがある活動を様々な形態で実施することで、両者の交流を図っている。
- 同居型においては、高齢者の住居に学生と一緒に住む。そうすることにより、高齢者は独り暮らしの不安解消になり、学生は格安で賃貸できる。また学生の地域活動への貢献も義務となっているので地域との交流も活性化できる。
- その他にも、訪問型として、高齢者の家の片付けや高齢者と一緒に食事会やお茶会を行うものもある。学生はこれまでとは異なる新しい交流から学びの機会を得ることができ、高齢者も生活に張り合いが生まれる。

#### オ. その他の活動

- 和菓子の作り方教室や東大サイエンスツアーなどの講習会事業、また災害時の安否確認・救助のための「黄色いしるし」作成、「本郷百貨店」（バザー）や「文人卿」（ゆかりのある文人による地域ブランディング活動）などを行っている。
- 野路町は地域のつながりの深い地区である。いきなり本郷地区で行われていることを全部行うというのは難しいかもしれないが、できるところから少しずつ活動を広げていくことができればよいのではないかと思う。

#### (3) 坂本氏と杉本氏、谷氏とのトークセッション

坂本氏: コミュニティカフェの場所として新宮会館が選ばれた理由は何か。

杉本氏: 昔は新宮神社に隣接する結婚式場、少し前は町内会の集会に利用されていたが、頻度が年々減少していた。そうした中、学生さんのコミュニティカフェの提案があり、野路町内会としても会館の活用を図りたいという思いがあり、両者の考え方が一致した。

坂本氏: コミュニティカフェの活動に参加されたきっかけは何か。

杉本氏: 学生さんの提案をきっかけに、町内会からは女性の会を中心に活動を行っていきこうということになり、ボランティアスタッフとして参加することになった。

谷氏: 別の町内会に住んでいるのだが、それまで認知症カフェの活動に携わっていた

こともあり、野路町内会長からのお誘いもあって、参加している。

坂本氏: 活動していて楽しかったこと、苦しかったことは何か。

杉本氏: 学生さんとのやり取りや色々なことを学ぶきっかけになっている。食品衛生責任者の許可は短期間で取得する必要があったため大変であったが、よい経験になった。また季節の飾り付けやイベント、行事なども楽しんでいる。

坂本氏: 新型コロナウイルス感染症の影響はあったか。

谷氏: 収容人数を減らしたり、検温を実施したりするなどの対策を行った。そして、緊急事態宣言明けから活動を再開した。

坂本氏: のじのじカフェは皆さんにとってどのような存在か。

杉本氏: ボランティアスタッフの皆さんとお話しし、交流することで、楽しい関係がつくれている。また常連さんや新しいお客さんなど色々な人と接することができる。

谷氏: 外国人住民の方が新宮神社に来られていたが、その方と交流する機会があった。留学生の方や学生さんとの交流が深まっていけば嬉しい。また、以前、学生さんによるスマートフォンの講習会を実施してもらった時、とても好評であった。こういった交流がまたあればよいと思う。

坂本氏: 活動に参加して、野路の歴史を知ることができた。また、地域のお祭りに参加する機会もあり、地域との交流の接点になっている。

坂本氏: 今後、どのような活動をしていきたいか。

杉本氏: 学区内の小中高生にも活用してもらったり、大学の講習会で利用してもらったりしてほしいと思う。

谷氏: これからも活動が広がっていき、皆さんに気楽に来ていただきたい。

坂本氏: ますます地域のつながりが生まれ、イベント等で活用していってもらいたい。

#### 4. 質疑応答等

(1) 参加者 1: 銘柄として「ワールドコーヒー」を使用している理由は何か。

桑野氏: 視察した「R-DECO」で使用されていたことがきっかけである。

坂本氏: 普通であれば週2回の営業店舗に卸すことは難しいが、業者の方の御厚意により、お店に立ち寄って販売していただいている。

(2) 参加者 2: 学生の方と活動をしてみて、周りの人たちに立命館大学での学びを進めたいと思ったか。

谷氏: 交流することで、お互いに聞きたいことなど話をする機会が持てている。

杉本氏: 学生さんを身近に感じることができた。まちで学生さんを見掛けると、声を掛けたいくなる。また市民大学において立命館大学の先生の講演があると聞く

と、参加してみようという気になる。

参加者 2: コミュニティの形成には相互の交流が大切だと思っていたので、そのような実例が聞けてよかった。

- (3) 参加者 2: 学生さんが学ばれている内容（科学技術分野）と目標とされている地域の安心・安全との関係について思うところはあるか。

坂本氏: 利用者や関わっている方は退職された方や年配の方が多い。そういった地域の方がカフェで会話する、交流するということは健康の面にとってもよいのではないかと思う。また学生、地域双方にとって社会での役割を持っているという面でも意味があると感じる。なお、まだ地域の方と一緒に何か学ぶという段階にまでは至っていないが、私が専攻している都市計画ということで言えば、まちづくりということをきっかけとして、地域住民と対話する場というものは形成されているのではないかと思っている。

- (4) 参加者 3: 学生と地域とのつながりについて感じることはあるか。潜在的につながりをもちたいと思っている学生は多いのか。

坂本氏: 個人的には大学院も含めて6年間、野路町に住んでいるので、土地に愛着も持つ。そういった縁もあって、町内会長の方に声掛けをいただいて地域のお祭りにも参加することができた。私の周りでもまちづくりを専攻している学生の中には周りをつながりを持ちたいという人は多いと思う。

桑野氏: 研究室に入る前はこのような場所があることを知らなかった。まだまだ学生には知られていないところがあるので、イベントなどを行ってのじのじカフェを知ってもらうとともに、活動にも参加してもらいたい。

- (5) 参加者 4: コーヒーの価格が「志（こころざし）」となっている理由は何か。

杉本氏: カフェは営利目的ではないので、お客さんの気持ちを入れていただくという意味で、そのような価格設定としている。

参加者 4: 収支を含めた運営体制はどのようなになっているのか。

坂本氏: カフェ単独の運営ではなく、収益は野路町内会に渡している。そして、町内会から備品、消耗品も含めて支援してもらっている。

岡井氏: 現状は町内会に支えられていて、ボランティアベースだが、持続可能な運営のためには、しっかりと収益を上げて、その中で運営できるようにしていく必要がある。これからは、価格の再設定、提供メニューの検討、また学生も含めてもっと多くの人に来てもらう工夫をするなどして収支が合うことを目指していきたい。野路町の皆さんは本当にやさしい方が多く、こういったカフェが地域で成り立っている。是非、これからもたくさんの方にカフェを利用

してもらえればと思う。

## 5. アンケートまとめ

参加者 36 名のうち、アンケートに回答いただいた方は 18 名、回答率は 50%だった。

### 問 1. 参加者属性

#### (1) 年代

10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上
4	6	7	1

#### (2) お住まい

草津市内	滋賀県内他市	滋賀県外
14	2	2

#### (3) 職業

学生	大学関係者	会社員等	その他
4	1	6	7

#### (4) 開催を知った手段（複数回答）

チラシ	ホームページ	SNS	メールニュース	広報誌	知人	その他
7	1	2	3	1	4	2

### 問 2. 今回、印象に残った点、講師の方へのメッセージなど

- 地域活動をしておりますので、ぜひ学生さんと繋がりたいです。これまでののじのじカフェの存在は知っていましたが、経緯など詳細は知らなかったので大変良かったです。今回のような地域の事例が発表されることはとても良いです。ありがとうございました。
- 本日の講演を聞いて、のじのじカフェが野路町の地域コミュニティを育む拠点であり、地域にとって欠かせない場所であることがわかった。また、町内会長、地域住民、立命館大学生と多くの方が助け合いがあるからこそこのじのじカフェの運営があると感じた。このような活動は、少子高齢化や人口の偏在が進む世の中において必要不可欠であり、持続していかなければならないと思う。そのためにも、最後に岡井先生がおっしゃっていたように地域住民のボランティアという運営形態ではなく、収支の見合う運営をしていく必要があると思った。さらに、街 ing 本郷のように小学生との交流といった活動は若者の利用者数の増加のきっかけになると思う。

- 大学の授業での演習の内容がそのまま実現することはなかなかない中、カフェとして地域と学生を繋げる場を作ったことは、今後他の授業や演習でも取り入れて欲しいと思いました。私ものじのじカフェのフードバンクをお手伝いした時に、野路の方々の温かい雰囲気がとても好きになりました。これからよりのじのじカフェを学生に知ってもらえるよう活動をし続けたいと思います。
- 「のじのじカフェ きらく」の開店前の事前準備と、フードバンクのお話が、大変印象に残りました。特に、開店の事前準備のお話で、ボランティアスタッフの方が食品衛生責任者の資格を取得された事や、地元の方が、コーヒークップなど、さまざまな品を寄付し応援された事には感銘を受けました。フードバンクのお話にも、当初の目的に加え、現代の大きな社会問題と直結する活動に取り組んでおられることに、又ボランティアの方々の熱意に、感銘を受けました。資金面や人材など、このような活動が抱える問題は、共通しているものが多いと思います。持続させる為の取り組みといった点についても、もう少しお話を伺えたらと感じました。
- のじのじカフェ設立までの背景や地域における位置づけについて詳しく知ることができた。野路町のコミュニティにおいて必要であると感じた。
- 地域の方々の想いを直接お伺いする機会を頂くことが出来た。これからも地域の声を出来る限り聴ける機会を期待しています。
- 街 ing 本郷の活動内容が大変興味深かった。
- (1) 地域コミュニティカフェ「のじのじカフェきらく」が学生さんの提案から始まったこと。
- (2) 参加運営者が楽しみを感じられている点が印象的でした。
- (3) 南草津の街が立命館大学の学生と街 ing 本郷のような事業が展開されていることを期待しています。
- アーバンデザインセンターの役割である地域住民との熱量が感じられたイベントで大変勉強になりました。コミュニティカフェを通じて住民と学生がつながりお互いの信頼が深まり地域や学生にとっても良い取り組みですので継続をお願いします。
- のじのじカフェさんの改めての思いが聞けて良かった。学生との交流は今後期待。東大の取り組みも真似てほしい。
- コミュニティカフェを通して地域のつながり、のじのじカフェの創設の経緯等詳しく説明された。今後の課題等も提案できている。今後のお互いの活躍を期待しております（地域住民との交流等）。
- のじのじカフェを運営されている方が、運営されている内容を明るく話されているのが印象的でした。現場でも楽しく交流されているのだと思いました。難しい質問もありましたが、学生の方が見事に回答されていたのが印象的でした。今の学生の方が活動において何を感じているかもお聞きしたかったです。
- 本郷で地域と学生の協力・若者が地域活動に参加・一つ屋根の下プロジェクトによる



シニアと若者の交流・ボランティアでなく自立に運営できると良いと思う。

- カフェが学生（若い方）と地域の交流がきっかけとなっていることがよく分かった。互いにメリットがある活動であると感じた。せっかく良い活動なのに、地域・学生に周知されていないことが課題なのでアピールの方法など工夫が必要と感じた。
- 立命館大学の学生さんたちが地域のためにいろいろ考えて交流の場を作っていたことは素晴らしいと思いました。また、書生生活、ひとつ屋根の下プロジェクトなど、そんな方法があるのかと勉強になりました。

### 問3. 今後のテーマや概要等についての要望

- 時間はちょうどよいです。仕事が終わってから参加できるので大変助かります。
- Zoomでの参加が設けられていたため、気軽に参加することができた。
- 昼間の開催も検討してほしいです。
- 学生の有償ボランティア活動を通じた地域づくり。地域・学生・大学の三方良しの地域づくり。
- 会場内での私語（子ども）が気になり、発言に集中できないとの参加者から声を聞きました。地域住民と学生、企業が協力できる企画をお願いします。
- 地域の子供たちと学生との交流できるイベント等のPR、広く地域住民へ周知の方法をもう少し考えてほしい。学生さんの参加活動がもっと活発になると良いと思う。
- 仕事がある者でも参加しやすい曜日や時刻をお願いしたい。（セミナー・スクール共）